（一）　第541号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎週日曜発行】　昭和33年（1958）9月7日（日）

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町二
電話3033番
編集兼発行人　攻　撓

子弟の一斉早退など
9月15日 強力な統一行動へ

総評の秋季年末闘争の一環として闘われる勤務評定反対闘争、最賃法制定闘争、日中関係正常化要求、紙パ労協闘争支援などの具体的な方針については、前号〝みいけ〟で報道したとおり、炭労指示がだされていたが、九月一日からひらかれた福岡県総評大会できめられた方針に従い九月十五日の第二次統一行動は指標を勤評反対闘争一本にしぼり、入坑時または休憩時間内の職場大会を開催し勤評反対の教宣と抗議をおこなうこと、組合員子弟の全日登校拒否はおこなわず、教組の午後授業打切りとあわせて正午からの一斉早退をおこなうことなどの指示が九州炭労からだされた。そのほかPTAにたいする対策、校長にたいする抗議要請、母親を中心とする居住区集会や署名運動など、九炭労指示消化についての三池での具体的な行動を三鉱労組戦術委員会で検討した結果十日ごろまでに各支部毎に地域分会長会議をひらいて方針を説明し、下部徹底をはかることになつた。

教組への支援強化

既報のとおり、全労働者階級にたいする攻撃として実施されつつある勤務評定反対闘争として、九月十五日の全国一斉職場大会開催と日教組の午後授業打ち切りを最低とする実力行使にあわせて、組合員子弟の登校拒否を中心に最賃法制定闘争、平和擁護政策のひとつとして日中国交回復、貿易再開を促進すること、紙パ労組の労協闘争や合化、鉄鋼の首切り反対闘争支援をカラミ合せた闘いをすすめるための炭労指示がだされていたが、九月一日からひらかれた福岡県総評第八回定期大会で論議の結果、九月十五日の総評第二次行動は、福教組の主体的な条件と県総評内の各単産や県内各地域の諸状勢を判断し、教組の午後授業打ち切り戦術を成功させる方法として子弟の全日登校拒否はおこなわず正午を期して一斉早退をおこなうことになつた。

また各単産とも九月十五日勤評にたいする教宣と抗議のための職場集会をひらき、勤評反対闘争一本にしぼつた闘いをすすめることになつたので、九州炭労福岡県内の各支部はそれにあわせた闘いをおこなうよう指示がだされた。

積極的な闘いを起せ

福岡県教育委員会は勤評実施をきめすでに規則を制定しており、この規則を廃止させるための闘いはいままでもつづけてきているが、現在の闘いの重点を各市町村教育委員会で、勤評を実施しないという覚書をとるとともに県教育委員会にたいし勤評反対の要求をさせる。このために地域共闘会議で具体的な行動を検討し積極的な闘いをすすめることになつた。

大牟田・荒尾地区では大地評・荒地評を中心に行動をおこすことになつたが、三鉱労組としては次のような具体的な行動をきめた。

職場大会

九月十五日各支部闘争委員長の指示に従つて各方入坑時、または休憩時間内の職場大会をひらいて勤評反対の教宣と抗議をおこなう。

子弟の午後一斉早退

九月十五日に教組がおこなう午後授業打ち切りにあわせて、組合員の子弟は正午から一斉に早退をさせる。そのため十二時までに統一した様式の早退届を学校教師に提出する。早退届用紙は十日ごろまでに各支部でひらかれる地域分会長会議で分会長に配布し、分会長から父兄に配布する。

お母さんの署名運動

主婦会は各班毎に班会議をひらいて、なぜ勤評反対の闘いをせねばならないかの話合いをおこない理解をふかめるとともに、子供たちの半日早退を成功させ平和と民主主義を破壊する勤評に反対する署名運動をおこなう。

学校長にたいする抗議

九月十五日午後授業打ち切りとあわせて、地連協役員やPTAの役員を主体に、各校区の組合員、主婦会員などを動員し校長に抗議をおこなう。

荒尾地区では勤評反対集会が予定されているので、その集会に四山・三川支部を主体に参加する。

前進
お母さんがたに
―再び勤評について

三鉱労組の家族のみなさん特におかあさんがたと三鉱労組の関係は六年前のあの一二三日闘争で、文字どおり一身同体となりました。

お母さんがたは、自分の夫のクビ切りに反対しただけでなく、自分の子供たちの将来のために、よその夫のクビ切り反対に断固立ちあがり、三鉱労組と一諸にたたかい抜いてきました。

炎天ほしをこがす酷夏より細風すさぶ荒涼の冬までの間のテントの下の座り込みや、血と肉をふつとおさせる怒りに燃えたデモや、赤旗に赤ん坊をくるんで警官隊と向きあつた山ノ上事件などを、三池炭鉱のお母さんがたは決して忘れはしません。

それからも、お母さんがたと三鉱労組はガッチリしたスクラムで闘い抜いてきましたが、保安優先も、完全雇用も、入坑採用も、生活の改善も、すべてはその闘いの成果以外の何ものでもありません

そしてわたくしたちは、虚礼や無駄を省く生活革命運動を実行してきましたが、毎月十五日の給料日や期末手当の支給日には家族会議をひらいていろいろな予算をたてたりもしております。

そのとき、夫の一カ月の給料を前にして、お母さんがたはさまざまな思いをさせられており、家中のみんなが「もつと豊かに」とねがつておるのです。

このように、小中学生やその下の幼いもののいろんな願いまでが労働者の生活のなかにちやんとはめこまれており、このことは賃金闘争の成果や職場闘争の前進が子供たちの幸福とどんなに密接な関係にあるかを証明しております。

だから当然、賃金闘争や職場闘争を妨害するものは、お母さんがた、子供さんたちの敵です。

さて、前号の「前進」でも訴えているように、単首相は昨年らい国鉄をはじめあらゆる労働組合をつぎつぎと弾圧してきましたが、目下は日教組すなわち先生方を目のかたきにしており、その全国委員長の小林さんまでを監視庁に拘留してしまいました。

このように先生方をいじめつける勤評に反対するため、単首相の自民党の反動政策を打倒するため私たちの子供たちを「労働者のがわ」に立たせるため、九月十五日には「早退」を闘いぬきましょう

つまり「早退」は子供たちにたいする無茶苦茶な強制などではなく、その親であるお母さんがたやお父さんたちにたいする労働組合としてのげんしゆくな指示なのであります。

子供たちの幸福が、労働組合の団結の力で守り高められることが理解されるなら、お母さんがたの決断を「早退」に一致させてください。

なぜなら、労働組合は、ほんらい子供たちを決して置きざりにはしないものだからです。

つまり、せつかく卒業した子供たちを「失業者」として置き去りにする反動政権とは本質的にちがうからです。

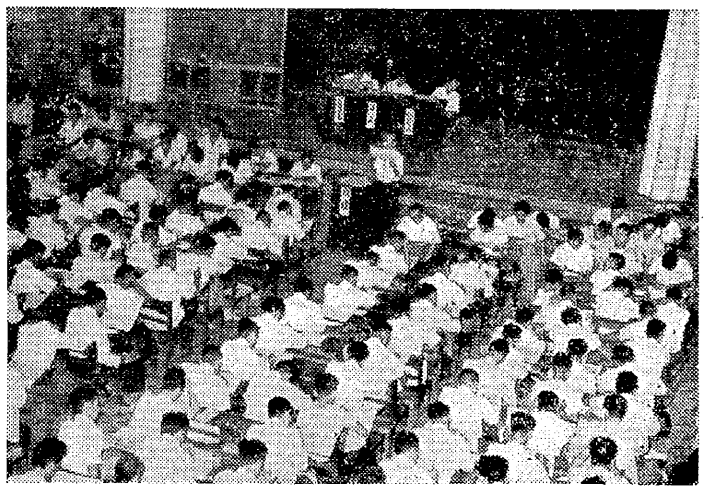
機械化交渉
いぜん対立
中央委員会で情勢検討

機械化・合理化山元団交は、八月二日要求書をだし、三鉱連、西鉱連など上部組織や友山と連絡をとりながら、八月三十日には鞍山三鉱連委員長をむかえ、精力的な交渉をつづけた。

約一カ月にわたる異常な長期交渉にもかかわらず、二十四項目の要求のなかで一部解決にちかずいたものもあるが基本的な事項で対立したまま進展せず、九月二日朝交渉を一時中断し四日全組合員に配布した伝単の通り、それまでの交渉経過の報告と、その後の闘争方針をきめるため、三日午前九時から中央委員会が招集された。

なお同日午後、各支部ごとに支部委員会で具体的な説明をおこない今後の交渉にそなえた。

四日から再開された交渉は、事前協議、人員補充、固定給にたいする加給など、主な対立点を中心に徹宵交渉をつづけているが、その都度情報で知らせているように、



機械化団交の経過をきく中央委員会

ことになつた。

闘争の重要さを再確認

三日労働会館でひらかれた中央委員会では執行部（灰原書記長）より、八月七日以降の交渉経過と鋭どく対立している内容（九月四日付で全組合員に対立点は号外として配布済）とが報告され、結論として、関連固定給者に対する加給を頂点とする解決への巾を執行部に一任することが確認された。

すなわち、固定給者に対する加給の要求は、機械化（ホーベルや移動機の導入や分層払実施など）に伴う労働強化をカバーするためであり、人員問題は労働強化を排除するための不足人員の採用についてであり、事前協議は「会社が勝手に何でも計画・実施する」ことへのブレーキであるわけだが、それだけに不況下の石炭企業としての抵抗が、予想以上に極めて強いことになつた。

つまり、企業の立場から言えば、固定給者への加給が固定給者全体に波及した場合は、機械化導入による利益など吹つとんでマイナスになつてしまうとか、能率を高めるための機械化導入で人員が増員されたら能率上昇には決してならないとか、事前協議の対象を狭く限定しておかないと山元で日常の実施が遅れて困るとか、要するに資金ぐり不足の立場の上にこのような考えを附加しておればこそ、強硬に組合要求を拒否している。

これに対して執行部は

(1)会社側の背後にある独占・日経連などの攻撃的な企図を分析し

(2)不況を独占のマス・コミだとする単純な否定から脱却し

(3)三鉱連・西鉱連内部との連繋をとり内部態勢を固めつつ

(4)銀行関係からの不当な圧迫・介入による会社側の不遜な反撃の一切を制止し

(5)機械化導入時におけるたたかいとしての成果を一応あげて、今後のたたかいに備える、という方針で組織の全力をあげて本闘闘の解決をはかる決意がしめされたのである。

各委員からは

(1)三週間以上も決議機関が開かれなかつた点の追及

(2)今後の職場闘争の推進

(3)クビ切りその他の企業整備への警戒

(4)情宣活動の積極化

(5)企業内闘争から産業別闘争への発展を企図せよ

という熱心な意見が出された。

中央委では、このたたかいが不況下の機械化・合理化闘争として、今後にも予断を許さぬものを含んでいることおよび関連職種のみの利害をはるかに越えた重要闘争として再確認された。

原水爆禁止世界大会の報告会開催

第四回原水爆禁止世界大会報告大会を来る十五日（月）午後五時から大牟田市民会館で開催するが、当日は原水爆実験の禁止、日本の核武装禁止など世界大会で取上げられたものを報告、決議の後映画を上映することになつている。

笹林の夕ぐれに

こんなにたくさんの人々が
心をひとつに叫んでいる
こんなにたくさんの母と子が
身をよせあつて叫んでいる
このけんめいの叫びのなかに
やむにやまれぬ「祈り」がこめられて
いる
どうしても貫かねばならぬ
願望がこめられている
「平和、平和、平和を守れ!!」
笹林の夕ぐれの空に
それは見えない翼となつて
どこまでも拡がり羽搏いていく。

機械化・合理化について

宮浦　田島　宏康

八月二日からはじめられた機械化交渉は、九月三日中央委員会で経過報告があり、その大要がやつと明らかにされた。

機械化問題が重要な時点にたてばたつほど、その本質と背景を浮きぼりにし新たな自覚の上にたつた態度と闘いが必要である。

企業内の問題点については、中央委員会で整理され、突つ込んだ報告もなされているので、ここでは別な面からながめてみたい。

昭和二十八、九年第一次合理化が進められた時は、全国的に整坑が掘さくされ三池でも南新開の開通と初島準備がされていた。一方首切りの嵐がふきまくつたが不況は片足をつつ込んだ程度でしかも部分的にしか現われず、すぐ立直りを見せたが、今度の合理化は恐慌が世界的な規模で全般的に先行きがわからないまでに進んでおり資本主義の命取りになるような段階で行われようとしていることに特徴があると思う。

特に国内的には三井銀行のオーバーローンが表面化し、世銀よりの借款が増大しており、出炭能率では三井が他の大坑占にはるかに及ばないままに不況に突入することはきわめて危険であり、その犠牲を労働者におしつけて切り抜けようとしているところにその本質がある。三井がかわいかつたら諸君が犠牲になりなさいということである。

つぎに会社が職場秩序を確立し合理化の実効をあげようとしていることである。三池では、労働者の権利意識に目覚めた力強い職場闘争が闘われており、これはいまでの闘いでかちとつた我々の誇かしい成果である。

合理化は職場秩序の確立なしには達成出来ないといつている彼等は十五億の機械化にばく大な金を投じて、我々に挑戦し職場秩序を確立したいとねらつているだろうこのことが機械化の本質をはつきりしめしている。

まして今度の機械化が部分的に行われ、関連職種、職場の労働が強化されるだろうから、機械化した途端に職場闘争がおこることをおそれているだろう。

以上のことから我々が重要な時点にたたされていることがはつきりするし、徹底した闘争をおこない勝利しなければならない。巾を持つた闘争を確認はしたが、大独占も、ますます着実な生産の発展をしめし恐慌をしらない社会主義諸国の存在と一方国際的に一億六千万、国内では六百万人の組織労働者を相手にして恐慌に突入するのは今更が始めてであり、硬化はしても決定的な態度がとれないのが現状であろう。

我々はいままでの闘いの成果を守り闘う方向を明らかにし、着実な前進をとげよう。

編集部から

三川支部の躰木　繁さんから勤評反対について、教宣を強めようという貴重な声をいただきました

執行部でも九月十五日の行動を前に徹底した教宣にとりくんでいますので、紙面の都合もあつて割愛させていただきました。